

## 外国語活動 小中連携年間計画の作成・活用について

京都市では、ほとんどの中学校区において、複数の小学校の子どもたちが一つの中学校に進学する状況があります。子どもたちが中学校での外国語科学習の開始にあたって戸惑うことがないようにするために、一つの中学校区にある複数の小学校の外国語活動はできるだけ共通したものであることが望まれます。

そこで、中学校区ごとに別紙のような小中連携年間計画を作成し、同じ中学校区にある複数の小学校が連携を意識して指導を行えるようにします。また、小学校同士の連携した取組を、中学校と情報交換をしながら進めていくことで、中学校との小中連携にもつなげることができると考えます。

- 「外国語活動 小中連携年間計画モデル」例を示しています。それぞれの取組の内容を簡単に示していますが、詳しくは以下をご参照ください。
- 小中連携年間計画には、各小学校での取組、小中の取組（複数の小学校同士の取組）、小中の取組（中学校も含めた取組）の三つを配しています。

### 《各小学校での取組例》

- ・ 外国語活動年間計画（校内研修内容、研究授業など）作成
- ・ 外国語活動年間計画 提案
- ・ ショートタイムレッスン（職員朝礼などを活用して、5分程度で全教員が参加できる内容〔クラスルーム・イングリッシュの紹介、簡単なワークショップなど〕を行う。）
- ・ 校内研修会（年度初めの理論研修や夏季研修会の伝達、ワークショップなど）
- ・ 授業研究会
- ・ 年間反省 など

### 《小中の取組例》

- ・ 小中連携年間計画の作成
- ・ 小中連携合同研修会（外国語活動主任や高学年担任を中心に）の開催
- ・ 共通単元の決定と内容の検討
- ・ 授業公開・参観 など

### 《小中の取組例》

- ・ 小・中学校間の情報交換
- ・ 小・中学校間での授業公開・参観 など

- ほかにも、各中学校区の子どもたちの実態やこれまでの経過を踏まえた取組の工夫ができると思われます。また、モデル例に示したものを全て行えなくても、取り組めるものから少しずつ進めていくことで、次につながる取組を想定することができると考えます。
- 別紙には、Excel ファイルで①外国語活動 小小連携年間計画モデル ②平成 25 年度版 小小連携年間計画作成用フォーマット ③5年 外国語活動 進度目安表 ④6年 外国語活動 進度目安表 を示しています。
  - ・ ②の作成にあたっては、複数の小学校の年間行事計画を踏まえて、中学校区における取組の調整を図ります。
  - ・ ③、④についても、各小学校の年間行事計画によって進度が変わると思われます。単元全体の流れを考えながら、途中で長期休業が入ってしまったり、内容が途切れたりしないよう配慮します。また、各校の進度表を参照して、複数の小学校間で共通単元や連携を意識した取組を配置していくようにします。



## 「共通単元」とは…

「共通単元」とは、小小連携を意識した取組の一つとして、複数の小学校において同じ学習指導案に基づき、同じ教材を使用して授業を行う単元のことです。可能な範囲で1～3回程度の設定が望まれます。

共通単元では、「テレビ会議システム」を活用した授業や直接対面してコミュニケーション活動を行う合同授業などを設定し、子どもたちが隣接する小学校の友だちと一緒に学習を行います。平素は交流の少ない子どもたち同士が、間接的または直接的に、英語を使ってコミュニケーション活動を行うことで、子どもたちの学習に対する動機付けにもなると考えます。

また、共通単元の取組を通して、子どもたちが外国語を「コミュニケーションを行う手段」として使用することができるだけでなく、複数の小学校の子どもたちの外国語活動における経験を共通のものにすることができます。